



樹木ウォッチング ～木の芽のはなし～

自然解説員
くりた よしはる
栗田 吉治

樹木の1年は、春になって固く閉じられていた芽をほころばせ、花を咲かせ、やわらかな新しい葉を広げることから始まります。ふつつ樹木の芽は春から夏にかけてできますが、芽はできてはすぐには伸び出さず、そのまま芽の形で秋をむかえて冬を超します。次の春になれば開く葉や花が、芽の中に折りたたまれた状態で休眠きゅうみんしており、これを「冬芽（ふゆめ又はとうが）」といいます。常緑樹であっても、冬の間は冬芽をつけているのがふつつです。

多くの場合、冬芽はその中にある若い葉くきや茎かんそうを冬の乾燥や低温から守るため、たくさんの芽鱗がりんをもっています。芽鱗は、芽の保護のための防寒ぼうかん（又は防乾）コートのようなもので、春になり新しい葉が出ると同時に役目を終えて落ちてしまいます。樹木の種類によって冬芽の形もさまざまですが、大きく分けて芽鱗に包まれた「鱗芽（りんが）」と、芽鱗に包まれずに小型の葉がむき出しになった「裸芽（らが）」とがあります。

樹木では、一本の枝の先端に「頂芽（ちょうが）」、葉のつけ根の葉腋ようえきに「側芽（そくが）」又は「腋芽（えきが）」がつくられます。これらを「定芽（ていが）」といい、それ以外のところにつくられるものは「不定芽（ふていが）」といいます。ふつつ、頂芽はその下につく側芽の成長を抑える傾向があり、この現象は頂芽優勢ちょうがゆうせいとして知られています。

樹木によってはクリ（次ページ右上図）やカキノキのように、新しい枝先が伸び終わるころ、頂芽を含む先端せんたんの部分が落ちてしまいます。そのあと、枝先のもっとも先につく側

芽が落ちた頂芽の代わりとなり、春にはまるで本来の頂芽のように伸びてきます。これを「仮頂芽（かちょうが）」といい、このように頂芽を毎年交代して伸びる樹木はかなりの種類にのぼります。



芽はその中にどんなものを含むかでも区別されます。ふつう、花だけを含むのが「花芽（はなめ又は、かが）」、花を伴わないで葉だけ含むのが「葉芽（ようが）」です。また、花と葉の両方を含むものを「混芽（こんが）」とよびますが、混芽も花芽の一型とするのが一般的です。まだ寒い2月ごろにニワトコの芽を見ますと、もうすでに花芽が大きくふくらみはじめ、小さめな葉芽と区別がつかます。

一つの葉の腋にはふつう1個の側芽がつくられますが、樹種によっては二つ以上できる場合があります。中心になって伸びる芽を「主芽（しゅが）」、その脇の小さな芽を「副芽（ふくが）」といいます。副芽は万^{まんいち}一主芽が虫や鳥に食べられたり、傷つけられたりすると主芽に代わって伸びます。すべての樹木にあるわけではありませんが、ニワトコやエゴノキには1個、ジャケツイバラでは5~7個の副芽があります。

樹木の中には、イロハモミジ・スズカケノキ・ハクウンボク（右図）などのように、側芽が葉の柄の基の部分にすっぽり包まれているものもあり、このような芽を「葉柄内芽（ようへいないが）」といいます。これらの側芽は秋になって落葉すると初めて外に現れてきます。

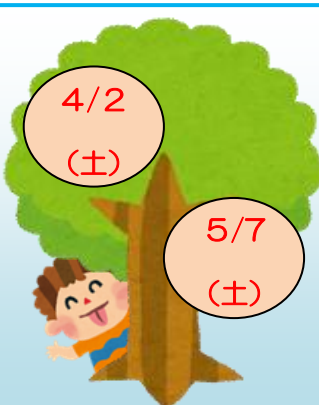


春になり枝の先の方の強い側芽が活発に成長を開始すると、多くの場合その枝の下の方にある小さな側芽は^{はつが}発芽せずに休眠して「潜伏芽（せんぷくが）」となることが少なくありません。潜伏芽は木の幹が成長しても芽となる^{もと}基が幹の表面に残りつづけて、枝が切られ

たときや、木が弱って葉が少なくなると目をさまして発芽します。

潜伏芽の成長は、サクラの太い幹からいきなり芽を出して花を咲かせているようすや、強く枝を切られて丸坊主まるぼうずにちかくなった公園や庭の木の幹から春になると沢山の枝がでてくることなど、よく目にすることができます。またクヌギやコナラなどの切り株の潜伏芽よりでてきた枝（ひこばえといいます）を育てあげ、燃料となる薪たきぎや炭すみの生産をおこなってきたことはよく知られています。

このように木の芽は、その形やはたらきなどによって、さまざまに分けられ、また名前がつけられています。ふだん、花や実と比べるとあまり気をひきつけられることの少ない木の芽ですが、森に入るとき、ちょっと立ち止まってそのかわいらしい姿をのぞいてみましょう。何か新しい発見が待っているかも知れません。

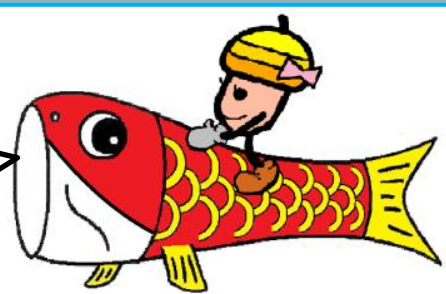


森のこども館のお知らせ

毎月第一土曜日に森の工芸館で「森のこども館」が開かれています。野菊野こども館のスタッフが、自然体験や工作など、自然の中での遊びを提供します。動きやすい服装で、ぜひ遊びにきてくださいね。

お問い合わせ：松戸市野菊野こども館（電話：331-1144）


♪森のこども館はGWとくべつかいさいに特別開催♪
5月3日（火・祝）～5月5日（木・祝）
森の工芸館にみんなで遊びに来てね！



★お花つみができます★『レンゲ畑で遊ぼう』

5月5日（木・祝） 11：00～12：30 13：00～14：30

みどりの里レンゲ畑を開放します。この機会にぜひ、お花つみや草花あそびを楽しんでくださいね！





パークセンター4月・5月の催し物



講座名	日時	定員	講師	材料費	受付
はじめてみませんか？植物観察	4月2日（土） 10：00～11：30	25	自然解説員 加藤 裕一氏	無料	3月15日 から
木々の芽吹きを観察会	4月3日（日） 10：00～11：30	25	自然解説員 栗田 吉治氏	無料	3月15日 から
夏野菜の育て方	4月9日（土） 13：30～15：00	70	みどりの相談員 橋本 倉司氏	無料	3月15日 から
タネから育てる草花と花壇苗の管理	4月10日（日） 13：30～15：00	24	みどりの相談員 秋元 満司氏	500円	3月15日 から
自然観察入門講座《春編》 「座学と実践で楽しく学ぶ観察の基礎とコツ」	4月16日（土） 10：00～15：00	20	東葛しぜん観察会	無料	3月15日 から
春の野草を観察しよう	4月17日（日） 10：00～11：30	25	自然解説員 川端 祥子氏	無料	3月15日 から
春を感じる素敵な寄せ植え	4月17日（日） 13：30～15：30	24	こちらは定員に達しました。		
母の日に贈る～プリザーブド フラワーのインテリアフレーム～	4月21日（木） 13：30～15：30	24	こちらは定員に達しました。		
いきもの調査隊 「タンポポとモグラ塚をさがそう」	4月23日（土） 10：00～11：30	25	自然解説員 相澤 章仁氏	無料	3月15日 から
〃	4月23日（土） 13：30～15：00	25	自然解説員 相澤 章仁氏	無料	3月15日 から
早おきバードウォッチング 「小鳥のさえずりを聞こう」	4月24日（日） 7：00～9：30	40	自然解説員 今村 裕之氏 直井 宏氏	無料	3月15日 から
植物観察入門 花から実ができるまで	5月1日（日） 10：00～11：30	25	自然解説員 加藤 裕一氏	無料	4月15日 から
みどりの里で茶摘み体験 ～新茶の手摘みと煎茶づくり～	5月11日（水） 13：30～15：30	24	みどりの相談員 丸尾 三恵子氏	無料	4月15日 から
初夏の野草を観察しよう	5月14日（土） 10：00～11：30	25	自然解説員 川端 祥子氏	無料	4月15日 から
有機栽培に挑戦しよう！	5月15日（日） 13：30～15：00	30	みどりの相談員 野島 博氏	無料	4月15日 から
生き物の体をマイクロスコップで ズームイン！	5月22日（日） 10：00～11：30	25	自然解説員 佐々木 雅裕氏	無料	4月15日 から
押し花のウッドプレート作り	5月26日（木） 13：30～15：00	12	アトリエ敏 渡邊 敏子氏	1,000円	4月15日 から
健康と癒しの森歩き ～心と体で楽しむ森林浴～	5月29日（日） 10：00～12：00	25	千葉県森林インストラクター会	無料	4月15日 から

♪パークセンターでもイベントが盛り沢山♪

♪4月29日（祝）～30日（土）

『春の盆栽展』（日本盆栽協会松戸支部）

♪5月6日（金）13時～15時、

7日（土）・8日（日）10時～15時

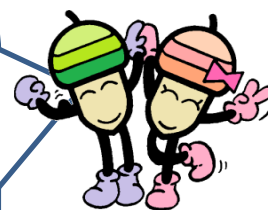
『オープンフォレスト・森の文化祭』

（オープンフォレスト in 松戸実行委員会）

♪5月24日（火）～29日（日）

『押し花作品展～花たちの語らい～』（押し花サークル桜）

♪皆様のご来園をお待ちしております♪



21世紀の森と広場
CITY OF MATSUDO

観察してみよう！ 花から実が できるまで

自然解説員
かとう ゆういち
加藤 裕一

春になると、植物たちの活動が一気ににぎやかになります。特に、春は観察できる花の種類が多い季節で、公園内を歩くと次々と花が目にとまります。いくつか見てみましょう。

【コブシ】

例年3月下旬から4月上旬頃に花が見られ、サクラより少し先に咲きだすことが多いです。真っ白の花が印象的で、春の到来を告げる花です。また、香りがとても良い花です。

【スミレの仲間】

公園内では、タチツボスミレという種類のスミレがもっとも多く見られます。細い柄の先に薄紫色の花をつけます。少し湿った場所ではツボスミレ（ニョイスミレとも）という種類も見られます。

【ドウダンツツジ】

白い小さな花をびっしりと沢山付けます。つりさがって下向きに咲くのが一番の特徴です。

【フジ】

ほかの木に絡まって伸びるつる植物で、4月の終わり頃から咲き始めます。長く垂れ下がる軸に多数の花をつけます。

タチツボスミレ→



フジ→



コブシ↓



ドウダンツツジ



トチノキ



【トチノキ】

5月に入る頃に咲き出します。小さな花が沢山集まりソフトクリームのような形になります。

ここで挙げた以外にも、今の季節は花が^{めじろお}目白押しです。春は本当に多くの花を観察できる季節です。ところで、それら春の花たちは、その後、どんな実^みに成長していくのでしょうか？

植物観察を始めたいという方やテーマをお探しの方にオススメなのが、この、「花から実ができるまで」というテーマです。このテーマに取り組むことで、植物が着実に成長していることを実感できるようになり、植物に対する親しみが深まると思います。普段、植物たちは、じっとしていて目に見える動きは感じられません。しかし、花から実への成長に注目してみると、少しずつ、確実に、四季を通じて変化している植物の様子がよく見えてきます。花を覚えたら、その後の変化も追いかけてみましょう。

花から実ができるまでを観察してみると、いろいろな発見や予想外の出来事が続くと思います。^{おどろ}驚くほど急激に成長する実があったり、逆になかなか成長を始めず心配になる実があったり…あるいは、花から全く予想できない不思議な形の実ができたり、実の色が急変したり…はたまた、若い実がイモムシに食べつくされてしまったり、^{じゅく}熟す寸前で風雨で落ちてしまったり…。無事、実ができるまで見届けられた場合には、その植物のことがぐっと身近に感じられるようになることでしょう。

右の写真は、最初に少し紹介したドウダンツツジの実です（タネを出したあとの様子）。ん？あれれ？なにか気付きませんか？花の写真と比べてみましょう。…そうです、向きが変化していますね。花はつりさがっていましたが、実は上向きになっています。一体いつの間にそんな変化が起きていたのでしょうか？こんな感じで、いろいろな植物の「花から実へ」に注目して観察してみてください。



八十八夜の別れ霜

みどりの相談員

はしもと くらじ
橋本 倉司

皆さん、「八十八夜の別れ霜」という言葉を聞いたことがありますか。

文部省唱歌の『茶摘み』という歌にも出てきます「八十八夜」という言葉。

その歌詞は、

♪夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る

「あれに見えるは茶摘みぢやないか

あかねだすきに菅（すげ）の笠」♪

です。



八十八夜（はちじゅうはちや）とは、雑節（季節の移り変りをより適確に掴むために設けられた、特別な暦日のこと）のひとつで、※1立春（第1日目）から数えて88日目（立春の87日後の日）にあたる日を言います。いつもは、5月2日ですが、今年は、※2閏年なので、5月1日です。この日までは、※3遅霜の心配があります。

※1: 暦日の一つ。この日を境に寒さが和らぐという。
※2: 太陽暦で1年が366日ある年のこと。
※3: 晩春から初夏に発生する霜のこと。

四月になって暖かくなってきても、時に急に冷え込んで遅霜が降り、農作物に被害を与えることがあります。このことを警告した言葉でもあります。4月になると畑にまいた野菜の多くが芽を出し、キュウリやトマトなどの苗を植える時期になります。この時期に遅霜にあうと、野菜は大きなダメージを受けます。それを戒める言葉でもあります。八十八夜が過ぎたら、外での作業を始めましょう。

というわけで、この時期から夏野菜本番。この時期になると畑仕事が忙しくなります。これまでに畑作りをしておきます。そして、次は雑草対策。これを何とかしないと野菜が負けちゃう。やっぱり小さいうちに抜くのが一番でしょう。でも、最近は、雑草を上手く取り入れた栽培方法が紹介されています。刈り取った草を※4畝に敷く草マルチ・また畑の周りに天敵のすみかとなる雑草を残すなど。

※4: 畑で作物を作るために（何本も間隔を空けて）細長く直線状に土を盛り上げた所のこと

3月に播いたエダマメやトウモロコシが結構大きくなってきています。トンネルなどを取

りましょう。果菜類（実を食べる野菜でキュウリ・カボチャ・トマト・ナス・ピーマンなど）の植え付け（定植）を始めましょう。根付くまで、風よけのために筒状にした肥料袋などで囲ってやるといいですよ。



暖かくなると、虫も活発に活動を始めます。天敵（害虫を食べたりする）や実がなるように花粉を運んでくれる虫などのよい虫もいるし、葉・茎^{くき}や実を食べる虫・樹液^{じゅえき}を吸う虫・病気を仲介する虫など野菜にとって大変な虫も出てきます。どうしましょう。まずは、よく観察して見つけたら駆除^{くじょ}しましょう。野菜作りもよく観察することが大切です。それでは、夏野菜の栽培を始めましょう。

みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738 ハナミツバチ

～自然観察舎 湿地の観察会のご案内～

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。定員：各回当日先着25名

実施日	土曜日・日曜日・祝日
実施時間	10:00～10:30
	11:00～11:30
	13:30～14:00
	14:30～15:00

発行日：2016年4月1日

発行：21世紀の森と広場パークセンター

開館：9:00～16:30

月曜休館（祝日開館／翌日休館）

〒270-2252 松戸市千駄堀269

TEL 047-345-8900

MAIL mckouen21@city.matsudo.chiba.jp